

高田援護室長の模型部屋(第27回)

皆様、こんにちは。この時期、受験生の皆様はまさに受験や受験勉強追い込みの真っ只中ですね。プラモデルを我慢して勉強に打ち込む・・・そんな受験生モデラーもいるのでは。受験が終われば進学した後に、また模型が作れますよ。頑張ってください！

前回、艦船模型でリフレッシュしたので、本来の戦車模型に戻りました。やはり戦車のほうが慣れているせいか作りやすいですね。で、今回出来た戦車がこれ！

IV号突撃戦車です。



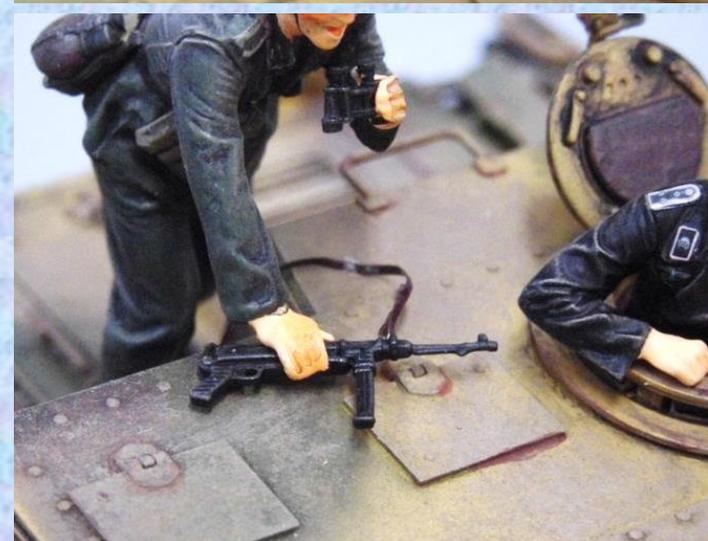
IV号突撃戦車は歩兵の支援を目的とした戦車で、15cm歩兵砲という大口径かつ強力な火砲で強大な敵を食い止めたそうです。ゴロンとした巨大な感じがなんとも言えず可愛いというかコミカルと言うか・・・長砲身戦車に比べるとかなり特徴のある戦車です。

第2次大戦当時、対戦車効力があつた成形炸薬弾や対戦車ライフル弾が直接車体に弾着するのを防止するために取り付けられたシュルツェンが目立ちます。効果はあつたようですが、すぐに脱落するためあまり乗員には評判がよくなかつたようです。

キットはタミヤさんで、昨年秋に発売になってからすぐに購入してしまいました。表面の凸凹のツインメリットコーティング（磁気吸着地雷防止の為のセメントコーティング）は別売りのシール状のシートを使用しています。それ以外はストレート組ですが、作りやすくてとてもよく出来たキットです。初心者の方にもお勧めのキットです。



各種ボルトやその周辺には錆とそれによる塗装等の剥がれ、予備履帯は表面全体の錆をこげ茶色のパステルコンテで表現しました。わかりますかね？



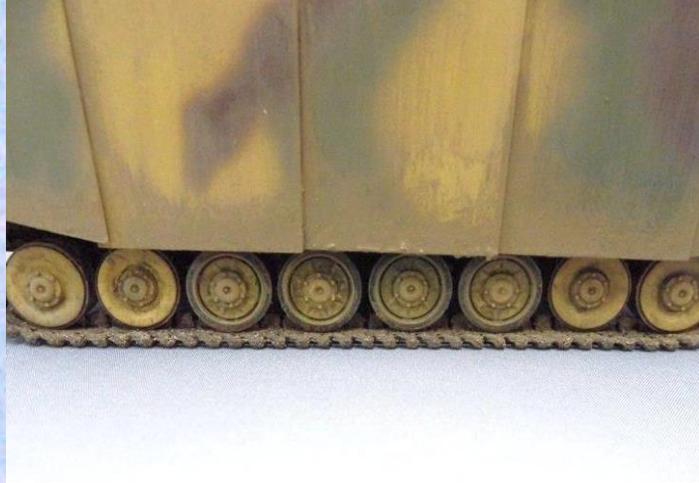
この戦車の主役たる戦車長と歩兵分隊長の二人。今回はアイフィニッシャーという極細面相筆で目を書き入れ、うまく塗れたと思ったのですがアップにするとやはり・・・まだまだ勉強不足です。歩兵分隊長の短機関銃はつや消しブラックを塗装した後、鉛筆の粉をこすり付けて金属感を表現し、マスキングテープの細切りでスリング(負い紐)を作りました。やはり銃にはスリングをつけたほうがリアルです。



車体下部はピグメントで泥をたっぷり附着させ、車体の上に行くに従ってウェザリングスティックのマッド、ライトアースの順でグラデーションをつけて泥埃を附着、最後に濡れ綿棒や平筆で上から下へ拭き取ります。実際、戦車の下部はこれくらいに泥だらけになります。走行する場所によりますが、転輪側面は走行中に草などで泥が拭き取られます。



左：砲口には発射時に弾体に巻かれた銅帯が削れ、それによる緑錆が少し発生するので緑のパステルコンテでそれを表現・・・あまりわからない（泣）
右：照準眼鏡には穴を開けて透明レンズを付けてリアルに・・・これもわからない（泣）
まあ、自己満足ですよ・・・自己満足・・・



シュルツェンの合わせ目から漏れ出たり、転輪から跳ね上がった泥が風雨に流された表現を出してみました。自衛隊の90式戦車のサイドスカート汚れを参考にしています。

ハンス！あの橋の向こうにいる
敵対戦車砲を叩いてくれ！！

任せろよ、ルドルフ！
とびっきりのプレゼントを贈ってやるぜ..



なんて、二人の会話が
聞こえてきそうです...

あぶない・・・また一人の世界にのめりこんでしまった。娘達にまた白い目で見られてしまいます。でも、やめられないんだな。これが(笑)

今回はここまで。また自己満足の世界にお付き合いくださいね。